

# 親子で生き物探し

みたけの里  
協議会主催

## 畑川で観察会

みたけの里づくり協議会がこのほど、新瀬利大橋（瀬利）下の畑川で「畑川でじゃことり！川の生きもの観察会」を開いた。親子約20人が網で魚や水生昆虫などを捕まえ、身近にある川や生き物への関心を高めた。

同協議会の会長は、開始の合図と同時に雲高校自然科学部の5人、篠山鳳鳴高校の科目「地域探究」の「自然と共生」班で同市の川を研究している2年生5人が運営を手伝った。

同川は、市が親水階段や、下流に魚道を設けていることから、たくさん生き物が身近に感じられる場所。子どもたちは、開始の合図と同時に網とバケツを持って川に入り、「何かおる」「見つけた」と言いながら、生き物を探まえては、水槽の中に入れていった。生き物に詳しい子どもも多く、「ここは魚が隠れやすいからね」と、同協議会メンバーに誇らしげに教える子どももいた。

篠山東雲高の主幹教諭が生き物の名前を紹介。カワムツ、ムギツク、ドンコ、ドジョウなどの魚や、ミズカマキリ、ヤゴなどの水生昆虫、ヒバカリ（ヘビ）もいた。

さん（城北畑小3年）は「ミズカマキリを捕った。ザリガニも捕まいたい」と目を輝かせていた。



「ミズカマキリを捕った」と友人に見せる子ども＝丹波篠山市瀬利で

2023年8月13日  
丹波新聞